

この前、さほどの目的意識もなく、海の方に向かった。相馬まで無料の自動車道がある。ありがたい。相馬から、海沿いに北上してみた。新地町に入る。釣師防災緑地公園というのを見つけた。行ってみた。管理棟のような建物に入る。そこには、新地町が経験した東日本大震災の記録があった。この建物は、伝承館の役割も果たしていた。公園では、子ども連れの親子が楽しい時間を過ごしていた。それが、かえって12年前の出来事を辛いものにさせていた。

さらに北上する。宮城県になり、山元町に入る。「山元町震災遺構中浜小学校」という案内が見える。すぐに、震災の爪痕を残したままの校舎だということはわかった。行ってみると、入口に黄色いハンカチが風に揺らいでいた。高倉健、倍賞千恵子、武田鉄矢、桃井かおりらによる、あの名作が蘇る。

管理棟らしき建物があり、受付とあった。中を見学できるようなので行ってみた。校舎を見ると、学校で働く者にとっては、様々な思いや感情が湧き上がってくる。テレビなどでは、映像越しに同じような校舎を見たことはあった。実際に目にすると、全く違った。津波の威力は、想像を絶するものだった。窓枠の曲がり方、天井がどこかにいってしまい、むき出しになった姿など、時が3月11日に戻ったかのようである。

中浜小学校では、児童、教職員、地域住民90名の命が助かっている。それは、偶然に偶然が重なった結果だった。私はわかっていなかったが、2011年3月9日に三陸沖を震源とする地震が発生していた。山元町は震度3だった。このとき、予想される高さ0.5mの津波注意報が発表された。校長は、水平避難（山側の坂元中学校へ移動）と垂直避難（2階へ避難）とで迷いながら、後者を決定した。児童と教職員は、2階図書室前へ移動した。だが、幸いにも津波はこなかった。

翌、3月10日の朝には、臨時朝会を開き、校長が児童に災害（危機）に対する意識の大切さ、地震の際には命を守るために防災頭巾を全員必ず着用することを話している。また、朝会后には、校長、教頭、教務主任による避難マニュアルの再確認が行われている。避難手順、避難先、所要時間などを再確認した。坂元中学校までの移動には子どもの足で約20分必要であり、津波の際の避難方法、避難先は、津波到達予想時間との比較により判断することを確認している。

そして、2011年3月11日、14時46分、三陸沖を震源とする巨大地震が発生する。山元町の震度は6強だった。校長は、机の下に潜るなどの安全行動を校内放送で指示する。職員室や教室のテレビで情報を収集する。各担任は、安全行動をとること、落ち着くこと、防災頭巾を着用することなどを呼びかけ、ドアを開けて避難経路を確保するなど対応した。児童は、机の下に潜る、防災頭巾を着用するなどの安全行動をとった。

14時49分に、大津波警報が発表された。宮城県への到達予想時刻は15時、予想される高さは6mだった。校庭にいた教員と1、2年生の児童は、車座になり待機した。校長は、10分で坂元中学校への避難は不可能と判断し、垂直避難（校舎2階への避難）を決断した。津波の高さが6mでは校庭と校舎1階は危険だと考えた。校舎内にいた児童は2階図書室前に集合した。校庭にいた教員と1、2年生の児童は、校長の指示で2階図書室前へ移動した。 （次号に続く）